

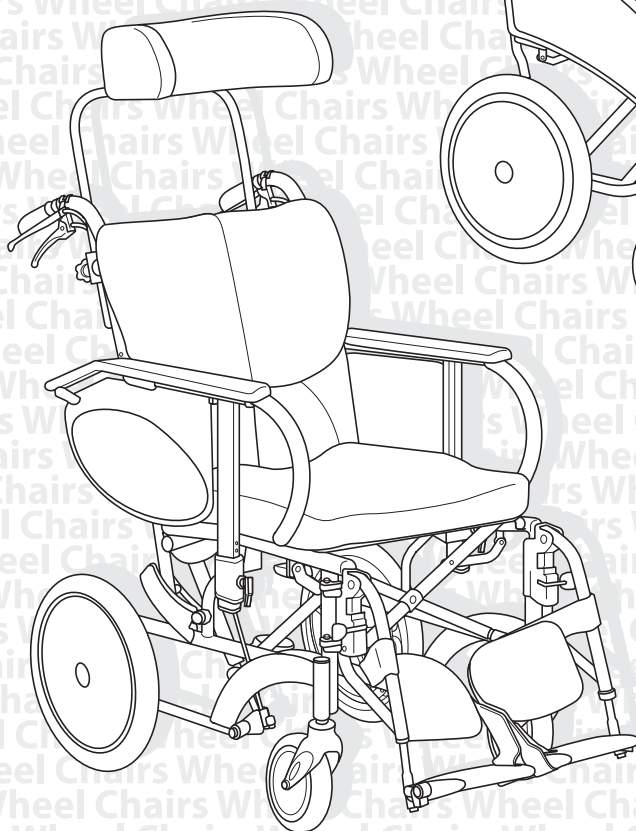
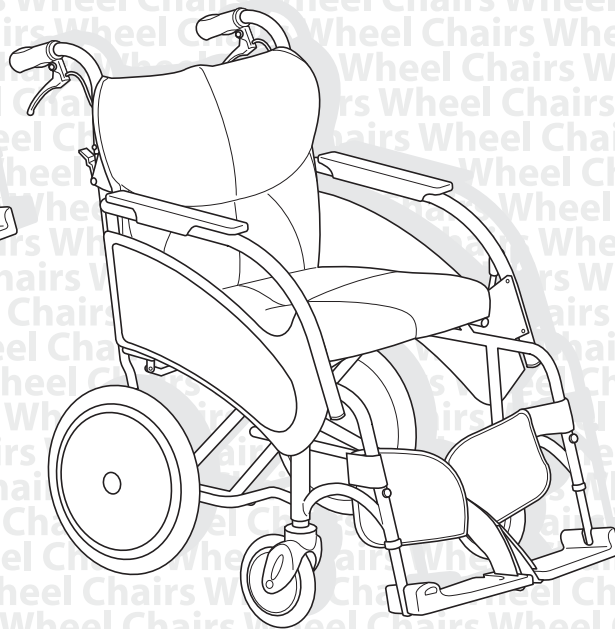
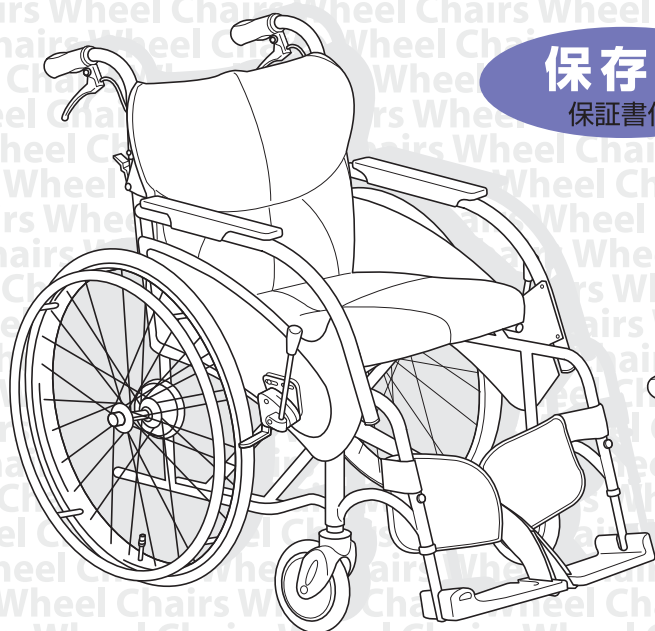
マツナガのデザイン車いす

オアシス *SERIES*

取扱説明書

保存用

保証書付



愛の輪
愛のいす



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や使用方法が説明してあります。ご使用になる前には必ずお読みください。また、保証書が付いていますので紛失しないように大切に保管し、必要に応じてお読みください。

車いすがお身体に合わない場合には、ご使用にならないでください。(健康をそこなう恐れがあります。)
そのような場合には、購入されたお店、かかりつけの病院にご相談ください。

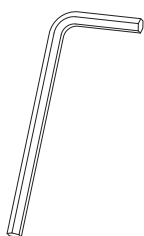
- お買い上げの製品は改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

以下の物が同梱されているか、確認してください。

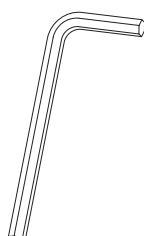
付属品



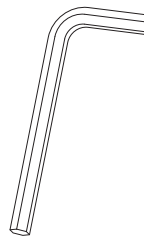
取扱説明書



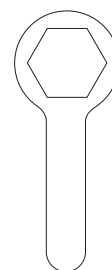
六角レンチ
(対辺3mm)



六角レンチ
(対辺4mm)



六角レンチ
(対辺5mm)



サービススパナ
(13mm)

- 万一、不足品がありましたら、すぐにお買い上げの販売店、または松永製作所にご連絡ください。

ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

- 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。
- タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)(P.6参照)

もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。

目次

安全にお使いになるためのご注意	2
機種別・寸法・機能・各部の名称	4
機能説明	6
安全にお使いになるための使用方法	6
ご使用の前に	6
ブレーキの使用方法	7
車いすの広げ方・折りたたみ方	8
車いすの広げ方 (OS-01、02の場合)	8
車いすの折りたたみ方 (OS-01、02の場合)	9
車いすの広げ方 (OS-12TR、11TRS、12TRSの場合)	10
車いすの折りたたみ方 (OS-12TR、11TRS、12TRSの場合)	11
車いすの乗り方・降り方	12
各部操作・調整の方法	13
バックサポートリクライニング (OS-12TR、11TRS、12TRSの場合)	13
フットサポートの調整	14
フットサポート (前後調整&角度調整&幅調整) (OS-12TR、11TRS、12TRSの場合)	14
フット・レッグサポートの使用方法 (OS-12TR、11TRS、12TRSの場合)	16
アームサポートの使用方法 (OS-12TR、11TRS、12TRSの場合)	17
ヘッドサポートの使用方法 (OS-12TR、11TRS、12TRSの場合)	17
張り調整シート	19
転倒防止 (OS-12TR、11TRS、12TRSの場合)	20
車いすの操作方法	21
介助の仕方	22
その他の注意事項	24
車いすのオプション	25
もしこんなトラブルが発生したときは	26
車いすのお手入れの方法	26
シートのお手入れのしかた	27
保証について	27
車いす点検シート	28
保証書	29

安全にお使いになるためのご注意



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。



警告

(禁止)



しては
いけない

■故障、異常のある時は直ちに使用を中止してください。

転倒・転落事故の原因となります。

■タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。

駐車ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いて、事故の原因となります。
また、タイヤのパンクの原因となります。

■バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けしないでください。

ロックが解除され、転倒・転落事故の原因となります。

■フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。

車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。

■車いすのシートの上で立ち上がらないでください。

転倒・転落事故の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

■車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車ブレーキをロックしてください。

車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。

■バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。

転倒・転落事故の原因となります。

■バックサポートの角度調整をする時は、駐車ブレーキをロックしてください。

車いすが動いて、転倒・転落事故の原因となります。

■リクライニング&ティルトレバーを左右同時に握りながら角度調整してください。

転倒・転落事故の原因となります。

■側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。

車輪が溝にはまって、転倒・転落事故の原因となります。

■バックサポートの角度調整をする時は、駐車ブレーキをロックしてください。

車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。



注意

(禁止)



しては
いけない

■急ブレーキ、急発進、急な旋回をかけないでください。

車いすに乗っている方が前方へ転倒・転落する恐れがあります。

■バックサポートに重いものを引っ掛けしないでください。

車いすが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

■車いすを払げる時に、座パイプの横や下に手や指を入れないでください。

パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。

■縮み止めは必ずロックした状態で使用してください。(P.10参照)

強度が低下し、車いすが破損する恐れがあります。

■ヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。

転倒・転落事故の原因となり大変危険です。また、強度が低下し、車いす破損の原因となります。

■リクライニング車いすの縮み止め・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。

外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。

■フットサポートにすき間がある状態で使用するとフットサポートが外れ、ケガの原因となります。

■ヘッドサポート調整後はマクラがしっかりと固定されているか確認してください。

マクラが固定されず、頭や首などを痛める可能性があります。

(禁止)



しては
いけない

- ヘッドサポートを持ち上げたり、無理な力を加えないでください。またヘッドサポートを押手として使用しないでください。
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
駐車ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で手にケガをする恐れがあります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、転倒・転落等事故の原因となります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指をはさんで、ケガをする原因となります。
- 走行中は急停車しないでください。
転倒・転落事故の原因となります。
- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。
- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒・転落して事故の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
使用者が車いすから、転倒・転落して事故の原因となります。
- 坂道を下るとき介助者の方はくんだり坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。
このような環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスト(オプション)をご使用ください。
- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。
- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。
- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。
- 車いすで荷物を運んだりしないでください。
- 火気の近くに置かないでください。
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- 介助者の方はキャリパーブレーキレバーを両側同時にかけてください。
バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 制動用ブレーキレバーとリクライニング&ティルトレバーを間違えないように注意してください。
不意にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすを上げた時、座パイプが受けに収まっているか確認してから座ってください。
パイプが曲がったりして、転倒・転落事故及び故障の原因になります。
- 保管する場所には十分注意してください。(P.27参照)
長期間使用しなかった場合には、各部の点検をしてから使用してください。
- 車いすの乗り降りは、必ず駐車ブレーキをかけ、路面の平坦な場所で行ってください。
車いすが動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落等事故の原因となります。
- フットサポートが固定されているか確認してから使用してください。
フットサポートが脱落し事故の原因になります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒・転落の事故の原因になります。
- フットサポート調整後は必ずボルトをしっかり締めてください。
フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。
- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。
足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。
- スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。
- アームサポートを下ろすときは、肘パットの内側に指をはさまないようにご注意ください。
- マクラを使用しない場合でもヘッドサポートパイプは使用してください。
フレームの破損の原因となります。
- 背張り調整ベルトに糸くずや汚れが付いていないか確認し、付いている場合は取り除いてください。
粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。
- 転倒防止の回転式スナップピンまたは、ノブボルトを必ずしっかりと締めてください。
転倒防止が外れ、役目を果たさない可能性があります。
- 必ず固定されている場所を持ってください。
操作レバー、ヘッドサポート、アームサポート、フット・レッグサポート、ブレーキなど持たないでください。
- 車いすを持ち上げるときは座面の水平を保ち、乗っている人の転落には十分注意してください。
- 安全ベルト装着機種は、必ず安全ベルトを締めてください。
衝撃などで転落し事故の原因となります。
- マジック式安全ベルトは、糸くずや汚れを取り除いてご使用ください。
粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故原因となります。

機種別寸法・機能一覧

機 種	キャスタ (インチ)	大車輪 (インチ)	座幅 (m/m)	前座高 (m/m)	後座高 (m/m)	全長 (m/m)	全高 (m/m)	全幅 (m/m) ^(※1)	折畳み幅 (m/m)	重量 (kg) ^(※1)
OS-01	6	22	380.400.420	430	400	965	860	610	320	14.5
OS-02	6	12	380.400.420	430	400	965	860	470	270	13.5
OS-12TR	6	12	380.400.420	430	～430	1010	965 ^(※2)	530	320	22.0
OS-11TRS	5	18	380.400.420	390	～390	925	1025 ^(※2)	570	350	23.5
OS-12TRS	6	12	380.400.420	430	～430	905	965 ^(※2)	530	320	22.7

※1 座幅が400mmの場合です。

※2 ヘッドサポートは含みません。

※背折たたみの状態の全高はOS-11TRS:約400mm、OS-12TRS:約300mm低くなります。

※肘パット高さは20mmピッチ、OS-11TRS:4段階、OS-12TRS:7段階です。

※全高にヘッドサポート寸法は含みません。

各部の名称

OS-01、02

グリップ

介助者が車いすを押すために使用します。

制動用ブレーキレバー

介助者がスピードを調整するために使用します。

ブレーキの使用法 P.7

駆動輪(自走型)・主輪(介助型)

駆動を伝える車輪

ドラロック

ティッピングレバー

キャスタを上げるため、介助者が足で踏んで使用します。

ハンドリム

自走型で駆動輪を操作するとき、使用します。

駐車用ブレーキ

乗り降りの時、車いすが動かないようにする為に使用します。

ブレーキの種類 P.6

キャスタ(前輪)

バックサポートパイプ

広げ方・折りたたみ方 P.8～9

バックサポート(背)

背をもたれかけるところです。

アームサポート

肘を乗せるところです。

シート(座)

座るところです。

ベースパイプ

レッグサポート

足が後方に落ちないように保護します。

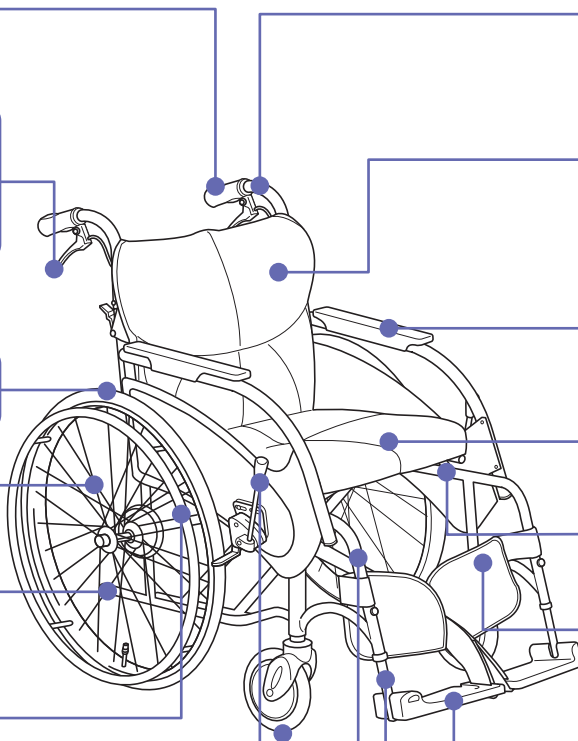
フットサポート

足をのせるところです。

フットサポートの調整 P.14

ステップポスト

フット・レッグサポート

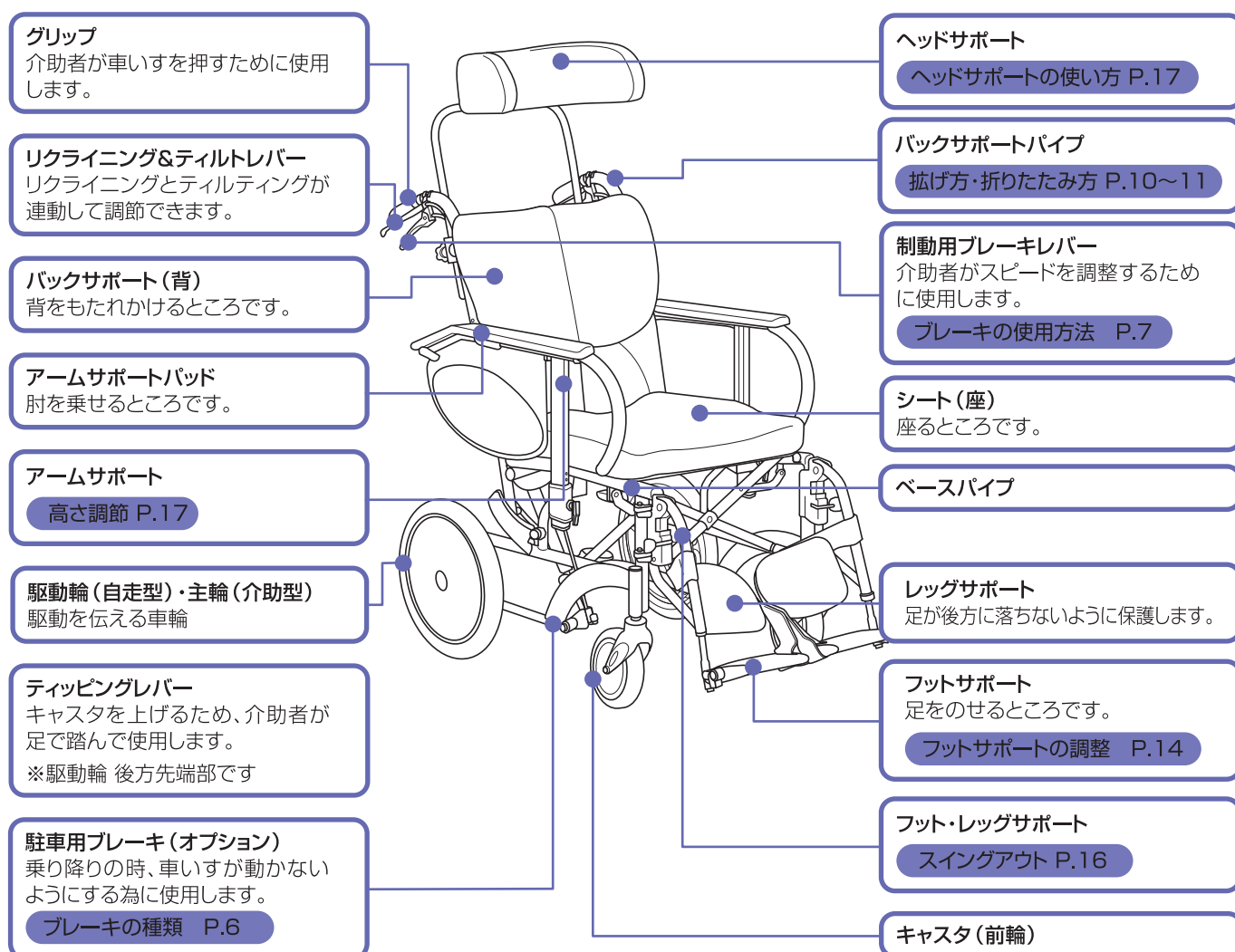


機種	タイプ	バックサポート	アームサポート	フット・レッグサポート	ブレーキ	
			機能	機能	種類	機能
OS-01	自走	折りたたみ	固定	固定	ミニタックル/ドラロック	ドラム
OS-02	介助	折りたたみ	固定	固定	ドラロック	ドラム
OS-12TR	介助ティルト リクライニング	折りたたみ	高さ調節	スイングアウト	ドラロック	ドラム
OS-11TRS	自走ティルト リクライニング	折りたたみ	高さ調整/着脱	スイングアウト	ドラム	ドラム
OS-12TRS	介助ティルト リクライニング	折りたたみ	高さ調整	スイングアウト	ドラロック	ドラム

OS-12TR、OS-11TRS、OS-12TRS共通 リクライニングとティルティングが連動して調節できます。		ティルト、リクラ最大時寸法					
		OS-12TR		OS-11TRS		OS-12TRS	
ティルト角度	リクライニング角度	全高	全長	全高	全長	全高	全長
0°～25°	90°～115°	670	1230	690	1215	670	1145

各部の名称

OS-12TR、11TRS、12TRS

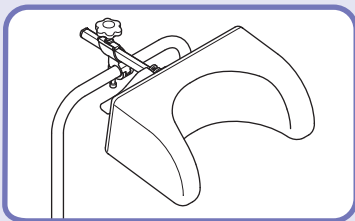


機能説明

＜ヘッドサポート＞

OS-12TR, 11TRS, 12TRS

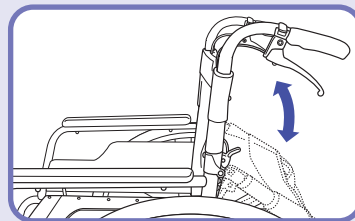
頭部を支持します。上下・前後・左右・角度を調整できます。



＜バックサポート＞

折りたたみ

背もたれを折りたたむと、自動車等への積み込みが容易に行えます。

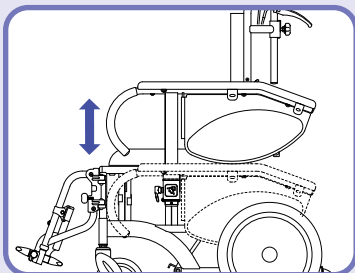


＜アームサポート＞

OS-12TR, 11TRS, 12TRS

高さ調節

肘かけの高さを調節して使用者の身体状況に合わせることができます。*また座面と同じ高さまでさげることができるので、ベッド等への移乗時に大変便利です。
※OS-11TRSは、対応しておりません。

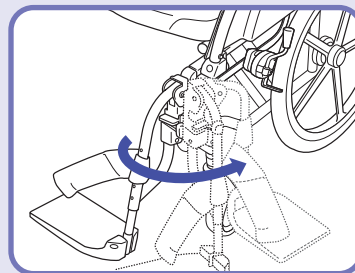


＜フット・レッグサポート＞

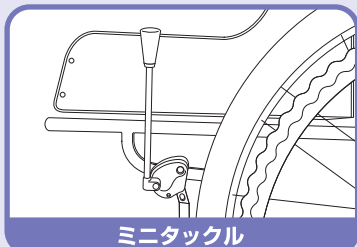
OS-12TR, 11TRS, 12TRS

スイングアウト

フットレッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッドや便器等への接近が容易です。

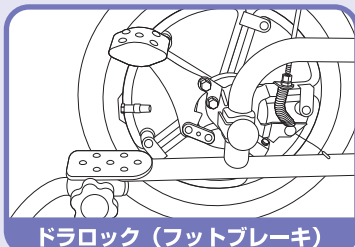


＜ブレーキ＞



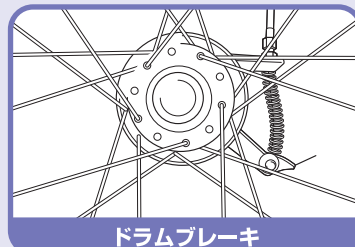
ミニタックル

乗り降りの際に車いすが動かないようにするために使用します。



ドラロック（フットブレーキ）

ドラムブレーキと一体化したブレーキです。介助者が足で操作します。



ドラムブレーキ

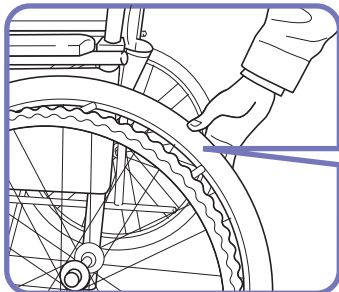
介助用のブレーキです。走行中や坂道で速度を調整する際に使用します。

安全にお使いになるための使用方法

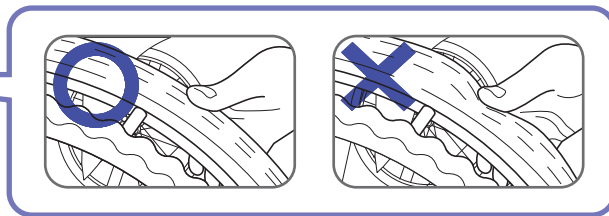
ご使用の前に

ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。



タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、自転車用空気入れで補充してください。

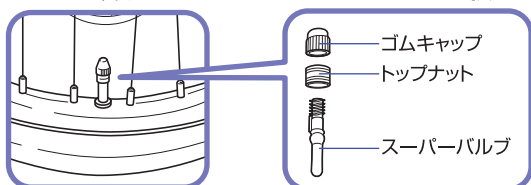


適正空気圧

- 22インチ (22×1) 500kPa (7.6kgf/cm²)
- 18インチ (18×1.3/8) 350kPa (3.5kgf/cm²)
- 12インチ (12×1.3/8) 350kPa (3.5kgf/cm²)

タイヤの空気バルブのトップナットが緩んでいないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、スーパーバルブを交換してください。



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(駐車ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いて、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。)

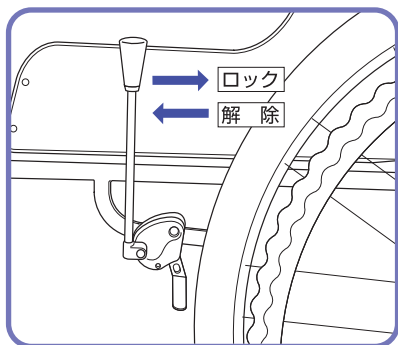
してはいけない

ブレーキの使用方法

ミニタックル

OS-01、OS-11 TRS

- 車いすをしっかりと止める時に使用してください。
- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(駐車ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いて、事故の原因となります。)

してはいけない

警告

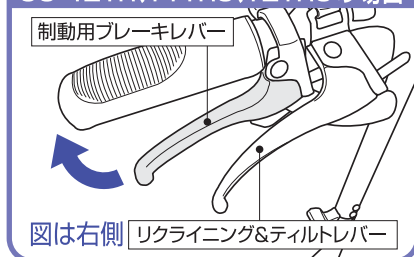
- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドなどへの移乗時には、必ず駐車ブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

制動用ブレーキ 介助者の方が走行中や下り坂での減速及び停止にご使用ください。

- レバーを握るとブレーキがかかります。
- レバーを離すと解除します。

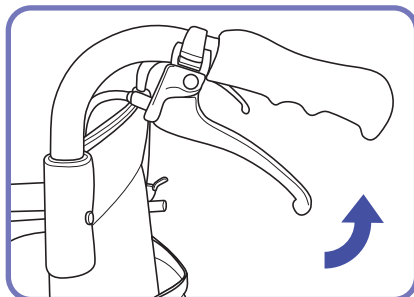
OS-12TR、11 TRS、12 TRSの場合



注意

- リクライニング&ティルトレバーと間違えないように注意してください。
(不意にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故の原因となります。)

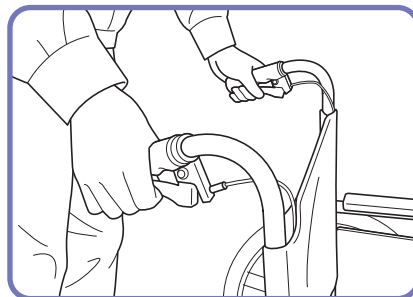
していただく



注意

- 急ブレーキ、急発進、急旋回をかけないでください。
(車いすに乗っている方が前方へ転倒・転落する恐れがあります。)

してはいけない



注意

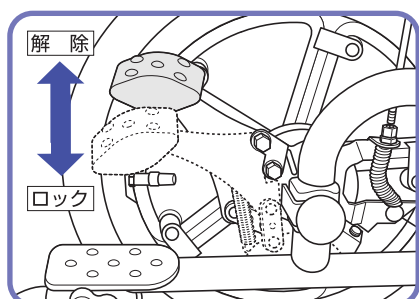
- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。
(バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

ドラロック(フットブレーキ)

OS-02、OS-12TR、OS-12TRS

ドラム式介助ブレーキ(制動用ブレーキ)にフットブレーキを一体化したブレーキです。ドラム部分でロックするのでブレーキの制動力がタイヤの空気圧に影響されません。



- ブレーキペダルを足で踏み込むとロックします。
- 上げるとロックが解除されます。

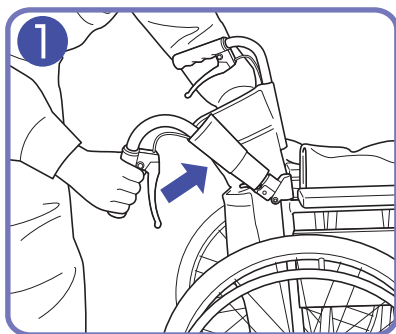
車いすの広げ方・折りたたみ方

車いすの広げ方

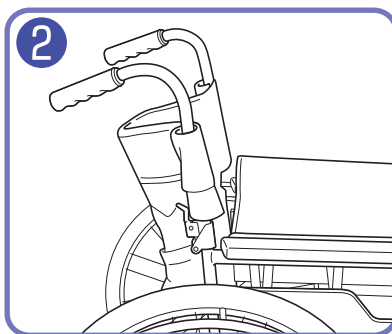
OS-01、02の場合

＊バックサポートの折りたたみを起こす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
(広げた状態で行うと、背シートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来なくなる場合があります。
また、背シートの破損につながるので行わないようにしてください。)

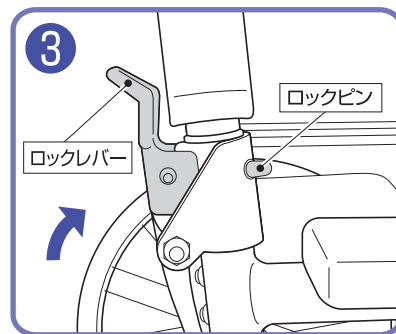
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



③ レバーを矢印方向に起こし、ロックピンが出ていることを確認する。



⚠ 警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、ロックピンが完全に出ていることを確認してください。(転倒・転落事故の原因となります。)

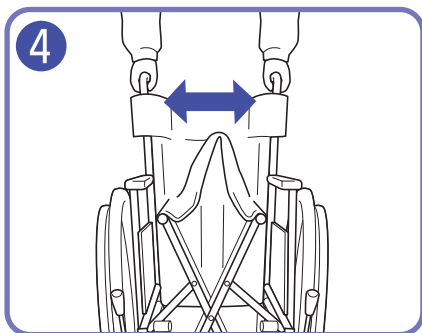
していただく

⚠ 注意

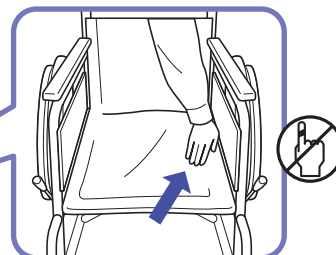
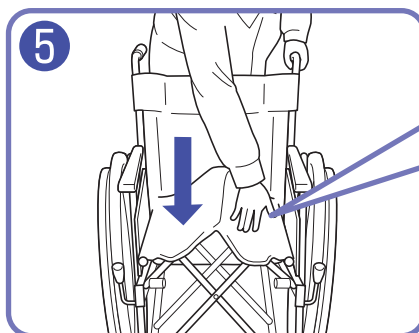
●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車いすが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

④ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に広げます。



⑤ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、シートが広がります。



※手・指に注意

⚠ 注意

●車いすを広げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

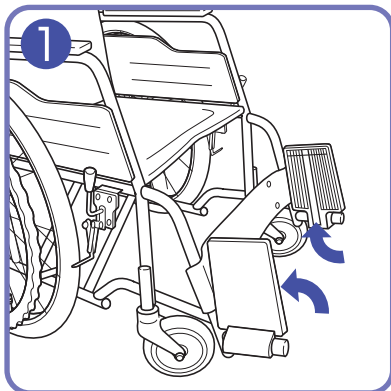
●車いすを広げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。
(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故及び故障の原因になります。)

していただく

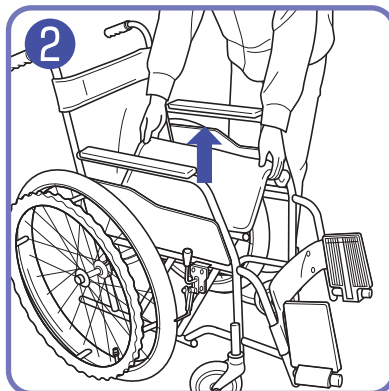
車いすの折りたたみ方

OS-01、02の場合

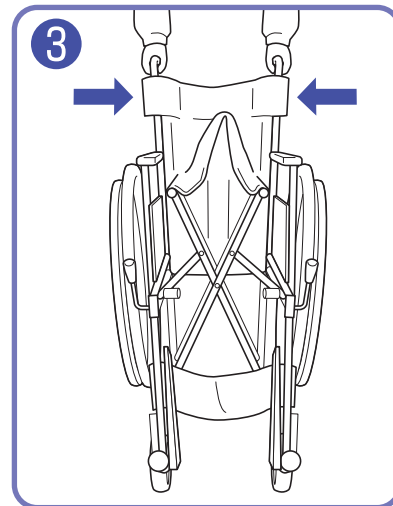
- ① フットサポートを矢印方向に回転させて上げる。



- ② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。

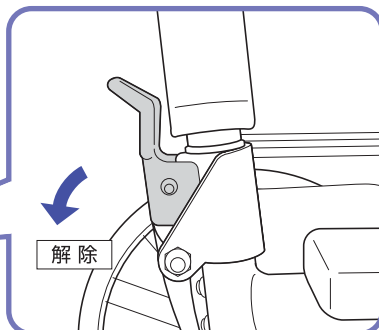
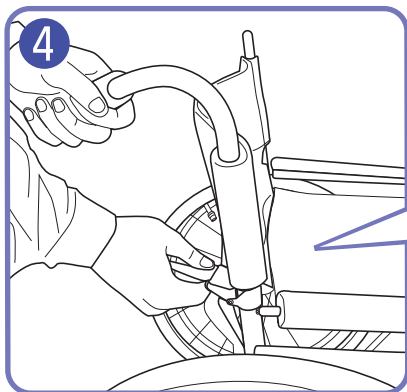


- ③ 左右のグリップを持ち、内側にたたむ。

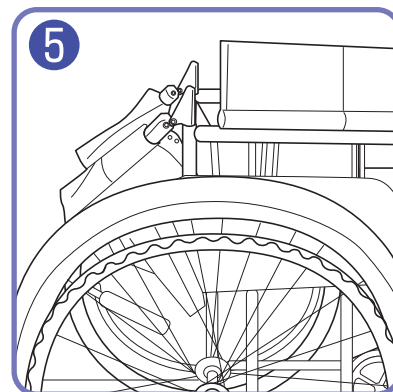


※車のトランクなどに収納する場合は、次の手順を行うとさらに高さを低く折りたたむことができます。

- ④ グリップを片手で持ち、ロックレバーを矢印方向に倒し、バックサポートを倒す。



- ⑤ バックサポートを両側後方に倒す。



⚠ 注意

- 保管する場所には十分注意してください。(P.27参照)
(長期間使用しなかった場合には、各部の点検をしてから使用してください。)

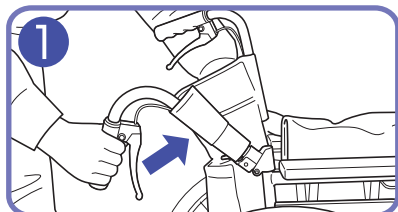
していただく

車いすの広げ方

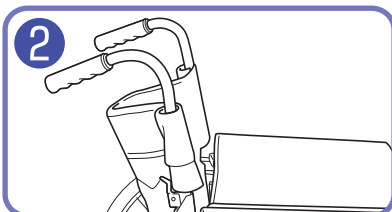
(OS-12TR、11TRS、12TRSの場合)

*折りたたんだバックサポートを起こす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
(広げた状態で行くと、バックサポートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来なくなる場合があります。
また、背シートの破損につながるので行わないようにしてください。)

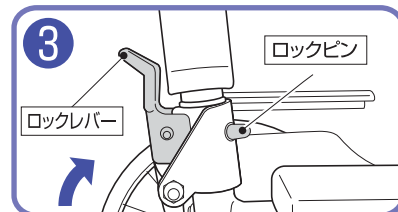
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



③ レバーを矢印方向に起こし、ロックピンが出ている事を確認する。



警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、ロックピンが完全に出ていることを確認してください。(転倒・転落の原因となります。)

していただく



警告

●バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。
(ロックが解除され、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

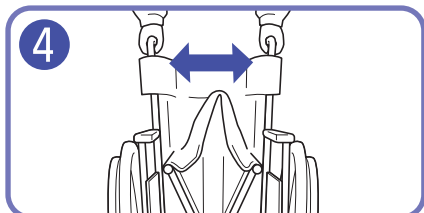


注意

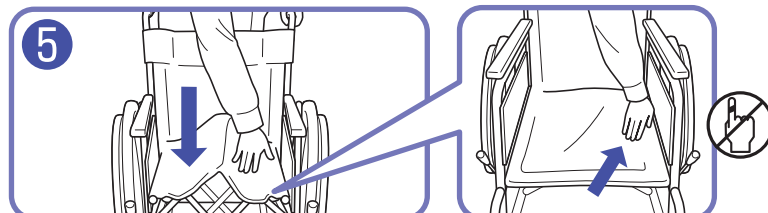
●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車いすが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

④ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に広げます。



⑤ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、シートが広がります。



注意

●車いすを広げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)

してはいけない

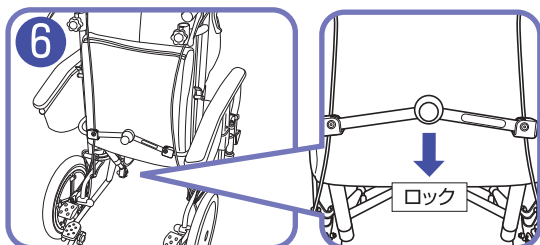


注意

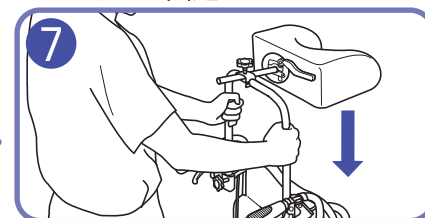
●車いすを広げた時、座パイプが受けに収まっているか確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故及び故障の原因になります。)

していただく

⑥ 縮み止めを押し下げてロックします。



⑦ ヘッドサポートを差し込み、左右のノブネジで固定します。(※P17注意参照)



注意

●縮み止めは必ずロックした状態で使用してください。
(強度が低下し、車いすが破損する恐れがあります。)

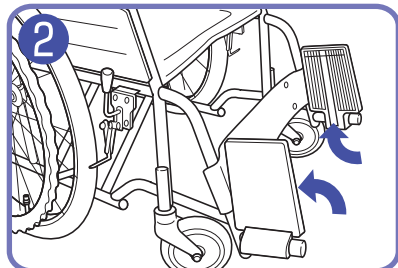
してはいけない

車いすの折りたたみ方

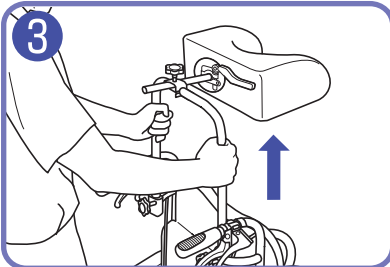
OS-12TR、11TRS、12TRSの場合

① 座クッションを取り外します。

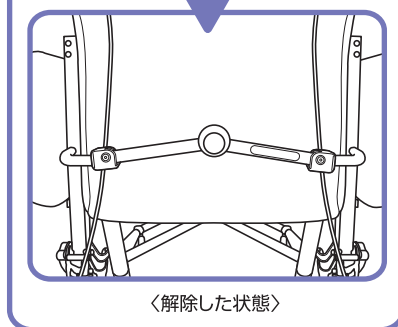
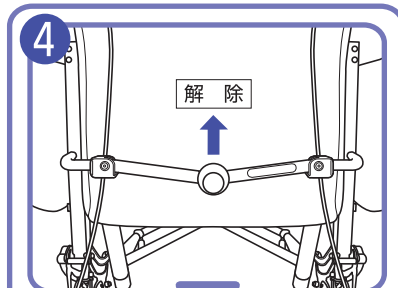
② フットサポートをはね上げます。



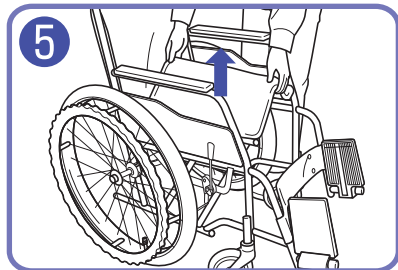
③ ノブネジを緩め、ヘッドサポートを取り外します。



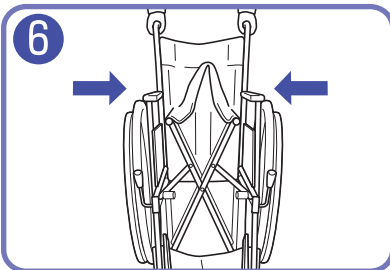
④ 縮み止めを解除します。



⑤ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げます。

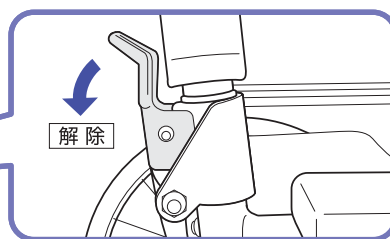
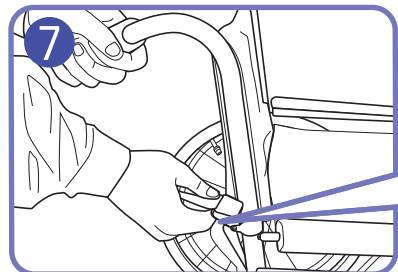


⑥ 左右のグリップを持ち内側にたたみます。

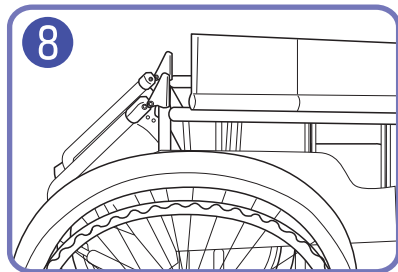


※車のトランクなどに収納する場合は、さらに高さを低く折りたたむことができます。

⑦ 背折れのロックを解除します。



⑧ バックサポートを両側後方に倒す。



⚠ 注意

●保管する場所には十分注意してください。(P.27参照)

(長期間使用しなかった場合には、各部の点検をしてから使用してください。)

していただく

車いすの乗り方・降り方

警告

●車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

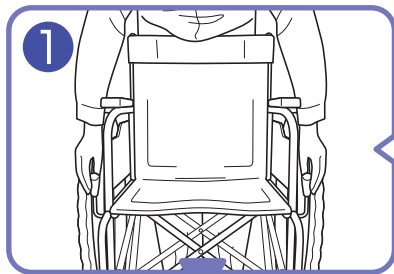
注意

●車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動いて、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

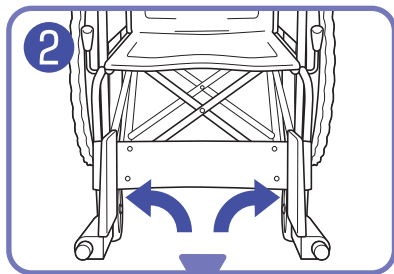
していただく

乗る時

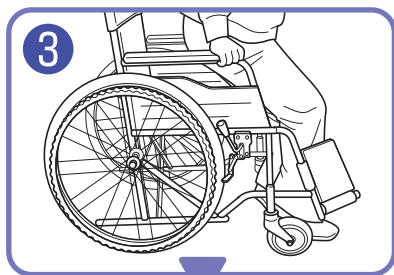
①ブレーキを両側ロックする。



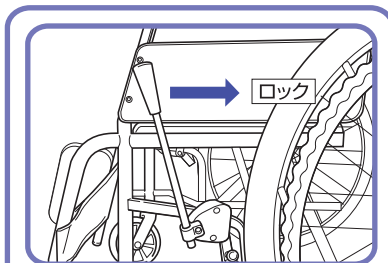
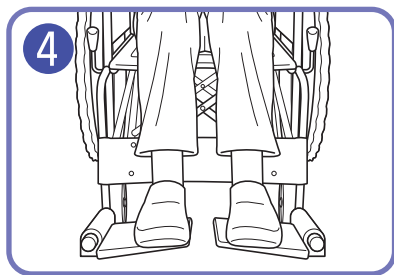
②フットサポートを両側上げる。



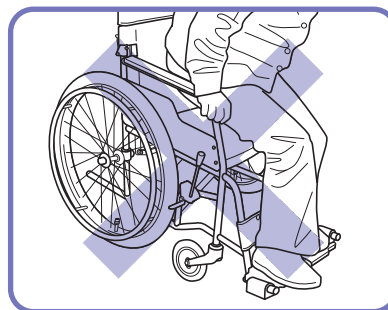
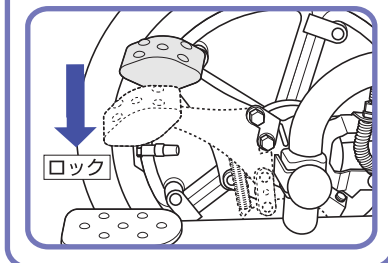
③両手でアームサポートを持ちゆっくり座り込む。



④フットサポートに足を乗せる。

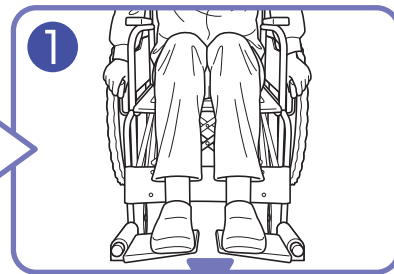


または

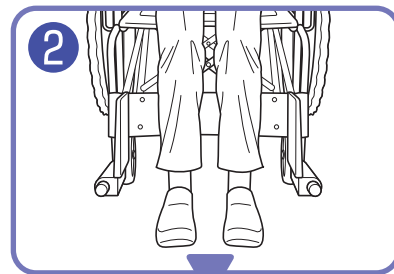


降りる時

①ブレーキを両側ロックする。



②フットサポートを上げ、足を下ろす。



③両手でアームサポートを持ちゆっくり立ち上がる。



警告

●フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

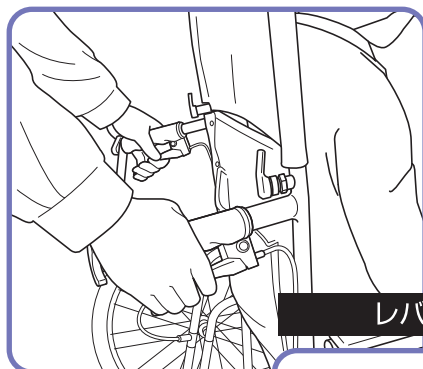
各部操作・調整の方法

バックサポートリクライニング

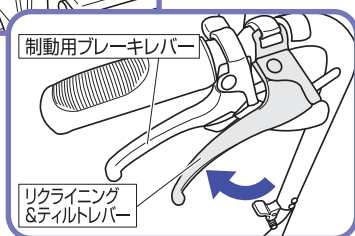
OS-12TR、11TRS、12TRSの場合

●バックサポートの角度を、身体状況に応じて調整することができます。

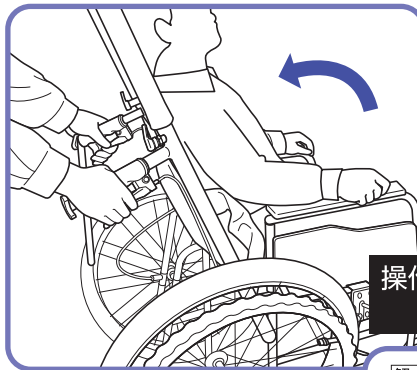
レバーを両側握る。



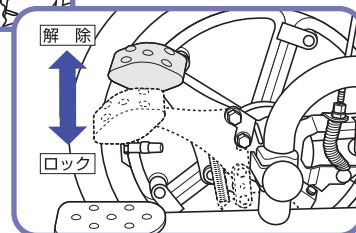
レバーに注意



背もたれ角度を調整し、位置が決まったら、レバーを離す。



操作はブレーキをロックして行ってください。



警告

●バックサポートの角度調整をする時は、駐車用ブレーキをロックしてください。
(車いすが動いて、転倒・転落事故の原因となります。)

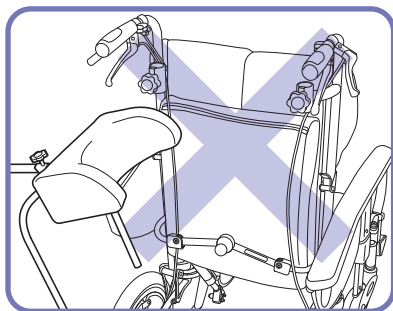
していただく



警告

●リクライニング&ティルトレバーを左右同時に握りながら角度調整してください。
(転倒・転落事故の原因となります。)

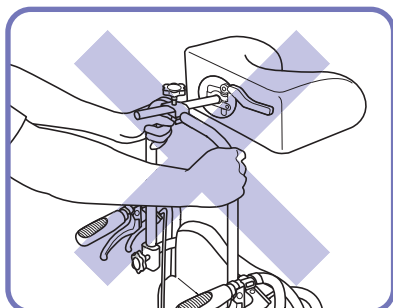
していただく



注意

●ヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。
(転倒・転落事故の原因となり大変危険です。また、強度が低下し、車いす破損の原因となります。)

してはいけない



注意

●リクライニング車いすの縮み止め・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。
(外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

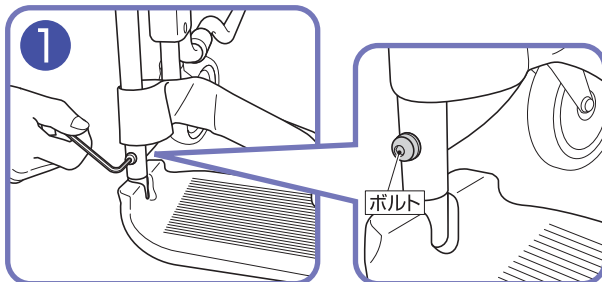
してはいけない

フットサポートの調整

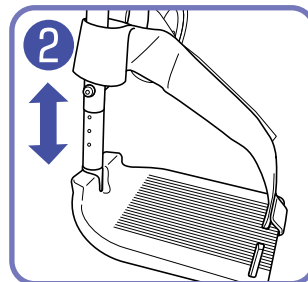
高さ(長さ)の調整

OS-01、
OS-02の場合

- ① 付属品の六角レンチでボルトを外す。
(ボルトを取り外すときには、フットサポートが
落ちないように支えながら外してください。)



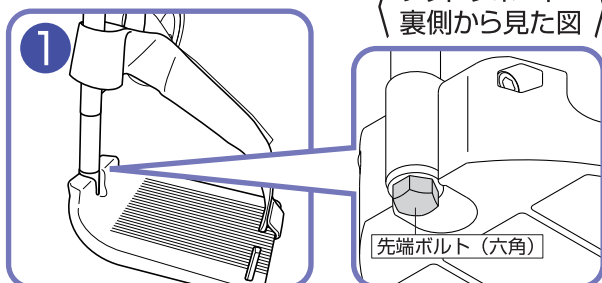
- ② 高さを調整し、ボルトを
締める。



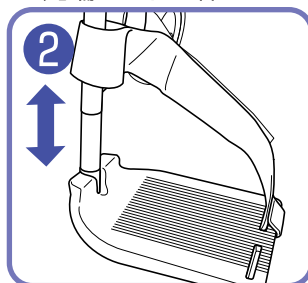
※適正トルク
6Nm

OS-12TR、
OS-11TRS、
OS-12TRS
の場合

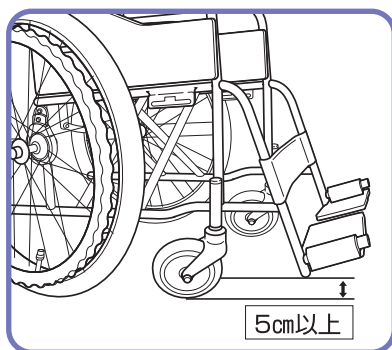
- ① フットサポートを少し上げ、
付属品のスパナで先端ボルトを
少し動くところまで緩める。 (フットサポート
裏側から見た図)



- ② 高さを調整し、
先端ボルトを締める。



※適正トルク
12.5Nm



⚠ 注意

- フットサポートが固定されているか、確認してから
使用してください。
(フットサポートが脱落し事故の原因になります。)

していただく

⚠ 注意

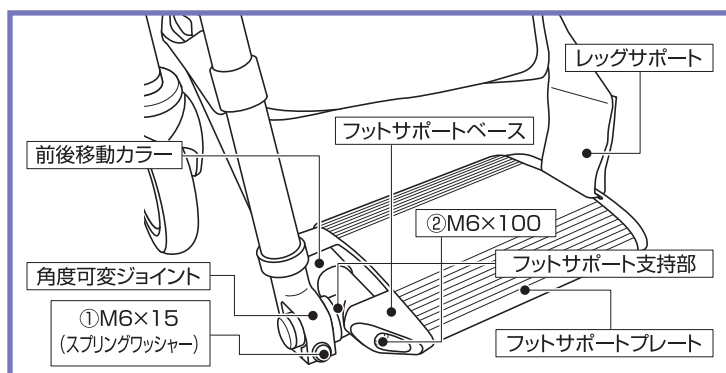
- フットサポートの高さは地面より5cm以上で
ご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり、
転倒・転落事故の原因になります。)

していただく

フットサポート(前後調整&角度調整&幅調整)

OS-12TR、11TRS、12TRSの場合

各部名称



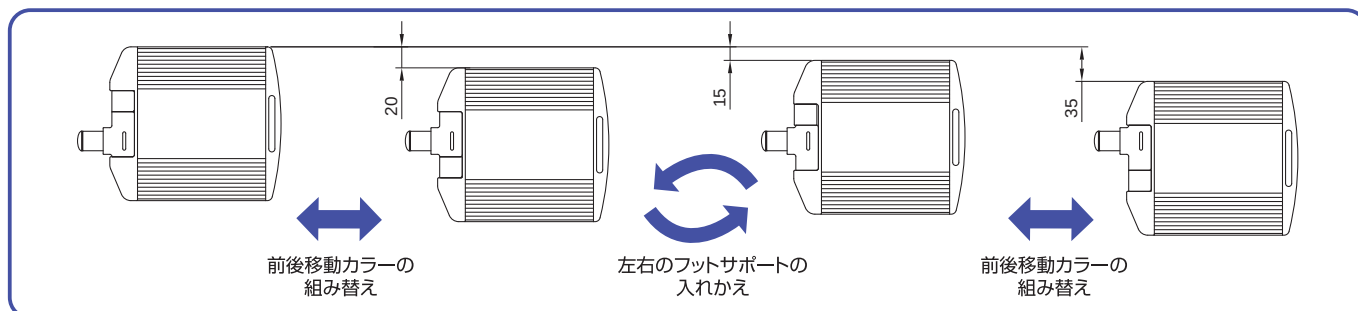
※適正トルク
① M6×15 … 10Nm
② M6×100 … 7Nm

- P.15の調整方法を組み合わせて、最適な位置でご使用ください。

前後調整

その1 ②M6×100を取り外し、前後移動カラーを組み替えます。

その2 ①M6×15を緩め（取り外す必要はありません）、左右のフットサポート支持部を取り外し、左右を入れ替えます。



⚠ 注意

- ボルトは必ずしっかり締めてください。（フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。）

していただく

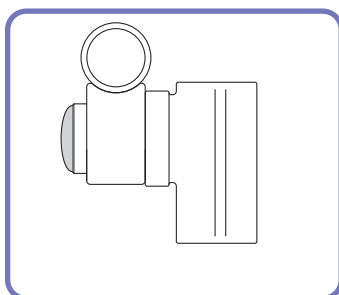
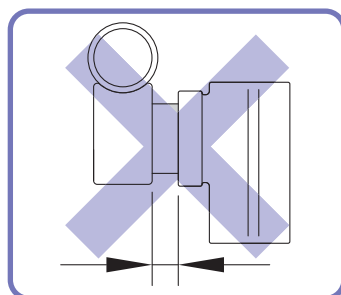
角度調整

①M6×15を緩めます。（取り外す必要はありません）

※このときスプリングワッシャーを無くさないようにしてしてください。

フットサポート全体をしっかりと持ち、最適な位置へ角度を変更してください。

※このときフットサポート支持部と角度可変ジョイントの間にすき間がないようにしてください。



位置が決まったら、①M6×15を締め、フットサポートが動かないか確認してください。

⚠ 注意

- すき間がある状態で使用するとフットサポートが外れケガをする原因となります。

してはいけない

⚠ 注意

- ①のボルトは必ずしっかり締めてください。（フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。）

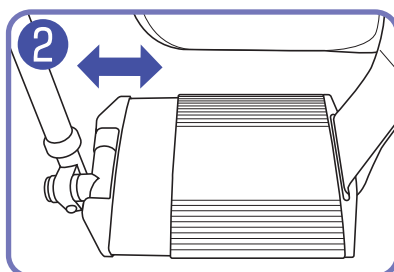
していただく

幅調整

① フットサポート裏のボルトを緩めます。



② フットサポートをスライドさせます。



③ 適切な位置でボルトをしっかり締めてください。

※適正トルク 7Nm

⚠ 注意

- ボルトは必ずしっかり締めてください。（フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。）

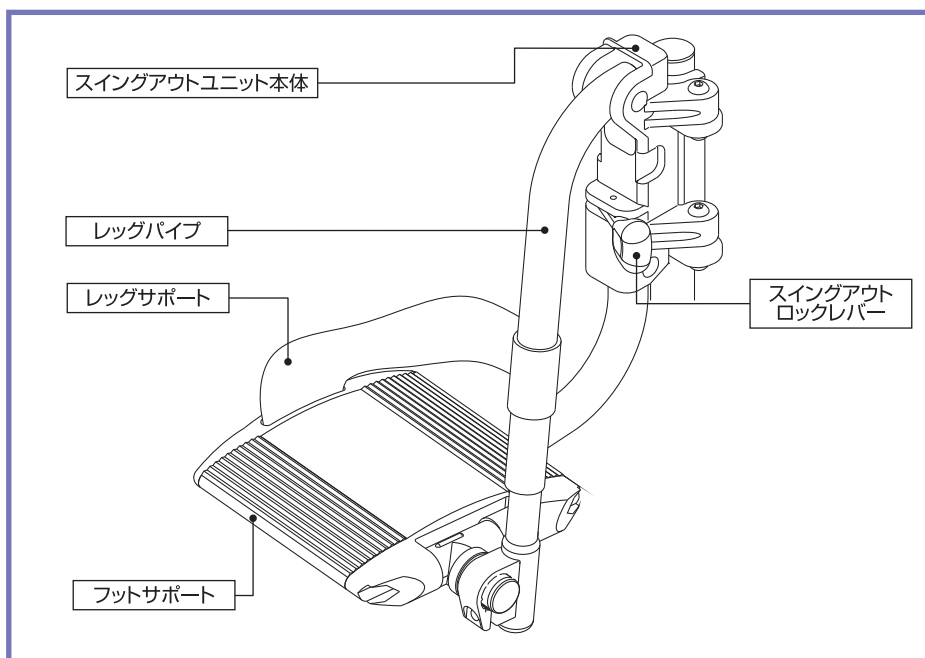
していただく

フット・レッグサポートの使用方法〈スイングアウトタイプ〉

OS-12TR、11TRS、12TRSの場合

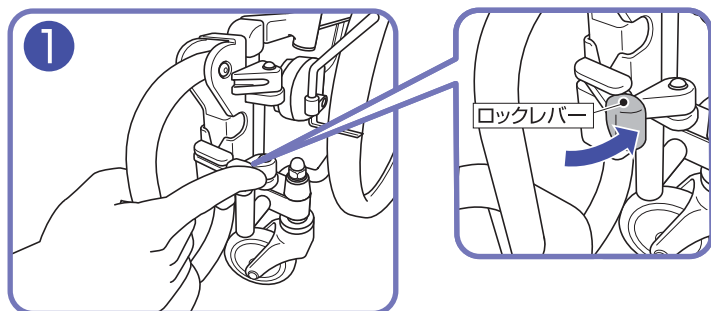
- スイングアウト（外開き）したり、取り外すことにより、足元が広くなり、トイレやベッドへの乗り移りがしやすくなります。又、足こぎ操作する時は、操作側のフット・レッグサポートを取り外すことにより、操作しやすくなります。

各部名称



スイングアウト（外開き）の操作方法

- ① ロックレバーを押し、ロックを解除します。

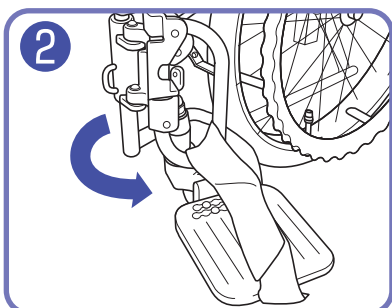


⚠ 注意

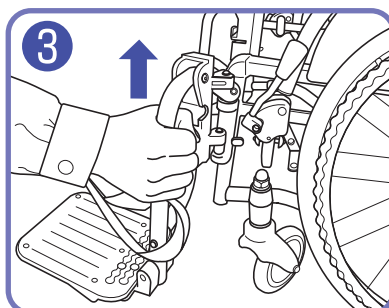
- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。
(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

- ② レッグサポートを外側へ開くように回転させます。



- ③ レッグサポートを取り外すときは、外側に開いた状態から上に持ち上げてください。



⚠ 注意

- スイングアウト着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。

していただく

アームサポートの使用方法

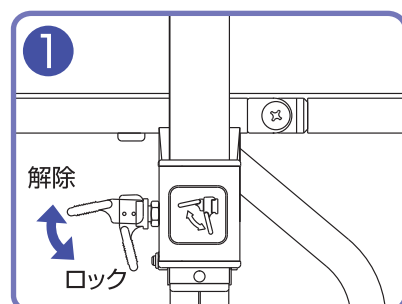
OS-12TR、11TRS、12TRSの場合

アームサポートの高さ調節のしかた

- 身体状況にあわせてアームサポートの高さを4段階で調節することができます。

※さらに、座シートと同じ高さまで下げることができるので、車いすからの乗り移りを容易に行うことができます。 ※OS-11TRSは、対応しておりません。移乗の際は着脱機構をご使用ください。

- ①セーフティーロックのレバーを上げ、ロックを解除してください。



- ②アームサポートを上下に動かして高さを設定し、セーフティーロックのレバーを倒してロックしてください。

確認

セーフティーロックが確実にロックされていることを確認してください。レバーがぐらぐらしているときは、ロックされていません。アームサポートをもって少し上下に動かすとカチッと音がし、ロックされます。

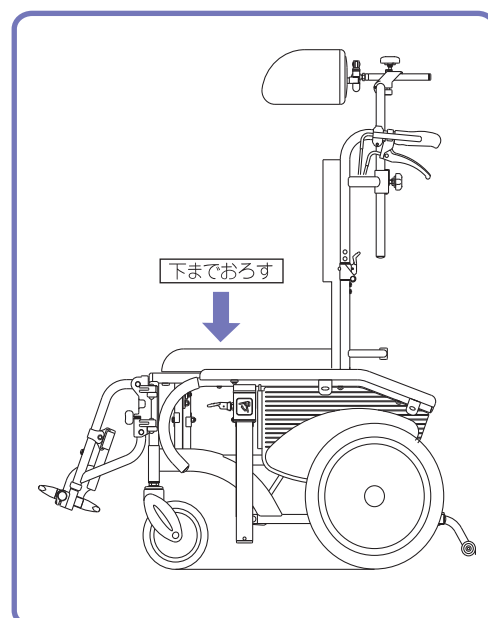
注意

- アームサポートを下ろすときは、肘パットの内側に指をはさまないようにご注意ください。

していただく

＜乗り降りの際＞

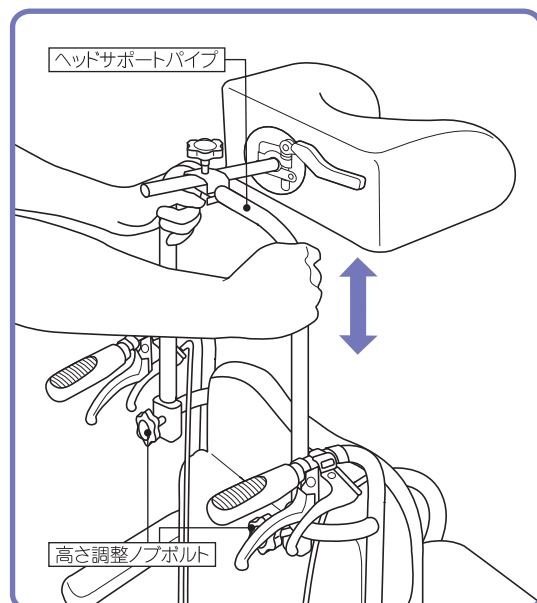
セーフティーロックを①のように解除し、アームサポートを最も下までおろします。



ヘッドサポートの使用方法

OS-12TR、11TRS、12TRSの場合

マクラの高さ調整のしかた



- マクラの高さを調整します。マクラは首と頭を支える形状になっています。

- ①高さ調整ノブボルトを緩めてください。
- ②ヘッドサポートのパイプを両手で持ち、使用者に合った高さに調整してください。
- ③高さが決まったところで、高さ調整ノブネジを完全に締めてください。

確認

調整後は、高さ調整ノブボルトが、完全に固定されているか確認してください。

注意

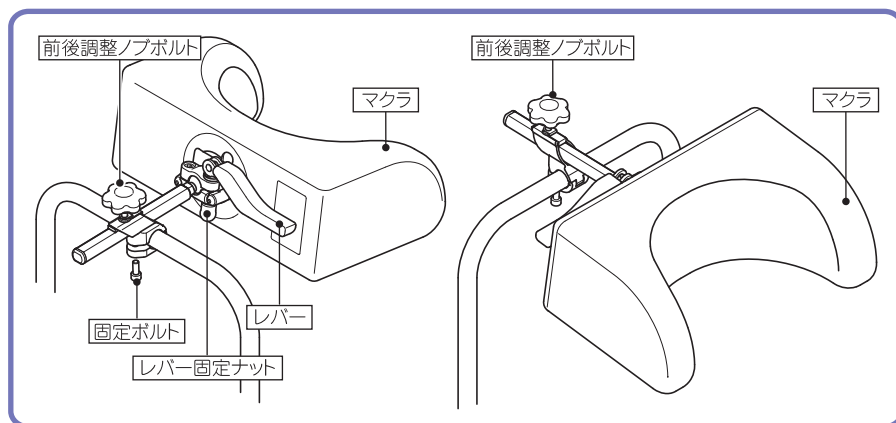
- マクラを使用しない場合でもヘッドサポートパイプは使用してください。
(フレームの破損の原因となります。)

していただく

マクラの前後左右&角度調整

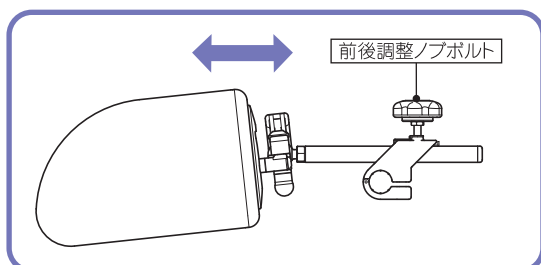
- 使用者本人の身体状況に合わせて、マクラの前後左右位置や角度を調整します。

〈各部名称〉



〈ご使用方法〉

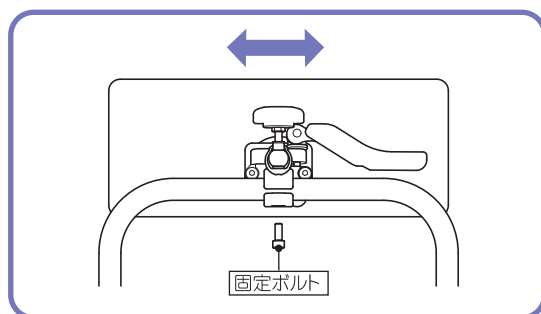
- 使用者の身体状況に合わせて、マクラの前後・左右・角度を調整することができます。
次の方法を組合わせて、最適な位置でご使用ください。



〈前後調整〉

- 前後調整ノブボルトを緩めて、マクラの前後位置を合わせてください。
- 位置が決まりましたら、前後調整ノブボルトをしっかりと締めてください。

確認 調整後は前後調整ノブボルトが、完全に固定されているか確認してください。



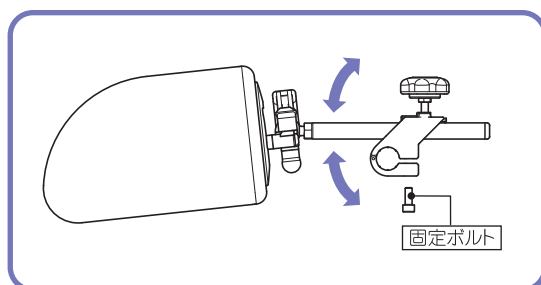
〈左右調整〉

- 固定ボルトを付属の六角レンチ（対辺5mm）で緩めて、マクラの左右位置を合わせてください。
- 位置が決まりましたら、固定ボルトをしっかりと締めてください。

※適正トルク 10Nm

確認

調整後は固定ボルトが、完全に固定されているか確認してください。



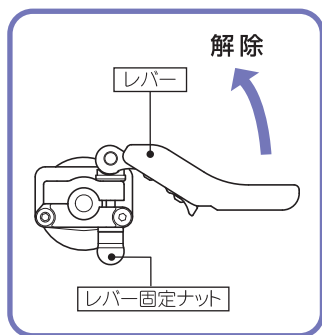
〈角度調整①（固定ボルトによる調整）〉

- 固定ボルトを付属の六角レンチ（対辺5mm）で緩めて、マクラの角度を合わせてください。
- 角度が決まりましたら、固定ボルトをしっかりと締めてください。

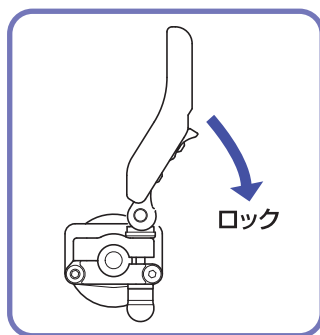
※適正トルク 10Nm

確認

調整後は固定ボルトが、完全に固定されているか確認してください。



固定した状態



解除した状態

<角度調整②(レバーによる調整)>

- レバーを矢印の方向に上げるとマクラが自由に動くので、マクラの角度を合わせてください。
 - 角度が決まったら、レバーを元に戻して固定してください。
- ※このときマクラが固定されない場合は、レバーを上げ、下側のレバー固定ナットを少し締めてから再びレバーを戻してください。逆にレバーが固くて戻らない場合には、レバー固定ナットを少し緩めてください。

確認 調整後は調整レバーが、完全に固定されているか確認してください。

⚠ 注意

- 調整後はマクラがしっかりと固定されているか確認してください。
- 表記してある部分以外のボルトは緩めないでください。
(マクラが固定されず、頭や首などを痛める可能性があります。)

してはいけない

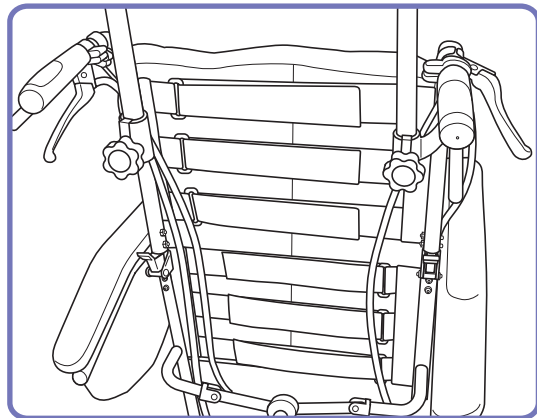
⚠ 注意

- 持ち上げたり、無理な力を加えたりしないでください。
- 押手として使用しないでください。

してはいけない

張り調整シート

- ベルトの張り具合によって、使用者の身体状況に合わせ、シートの張りを調整します。



背シート

- ① 背シート裏側(ポケット側)をめくってください。
- ② マジックベルトをはがし、適度な位置に調整し、再びマジックベルトを貼り合わせてください。
- ③ 背シート裏側をもどして、ブレーキワイヤーをポケットの内側に、引っかけてください。(左図参照)

座シート

座シートの張り調整ベルトは座シート裏側にあります。

- ① 背シートの手順②と同様に行ってください。

⚠ 注意

- 糸くずや汚れが付いていないか確認し、付いている場合は取り除いてください。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。)

していただく

転倒防止

- バックサポートを後方へリクライニングした場合に車いすが後方へ倒れないようにします。
使用しない場合は上下を逆にすることもできます。

OS-11TRSのみ

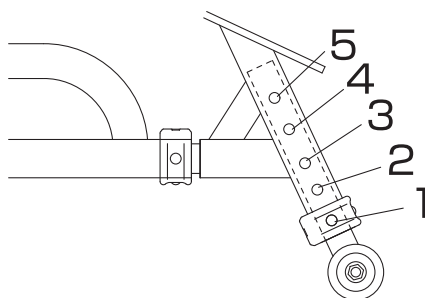
転倒防止の高さは車いすの前座高に合わせて
2段階、調整できます。

調整は回転式スナップピンにて行います。

自走式	前座高	1段階目 穴位置	2段階目 穴位置
	370	1	3
	390	2	4
	410	3	5

1段階:接地面より9cm(キャスト位置)

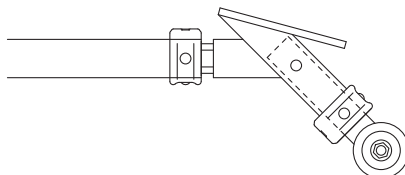
2段階:地面を接地します(キャスト位置)



OS-12TR、OS-12TRS

転倒防止の高さは2段階、調整できます。

調整は回転式スナップピンにて行います。



⚠ 注意

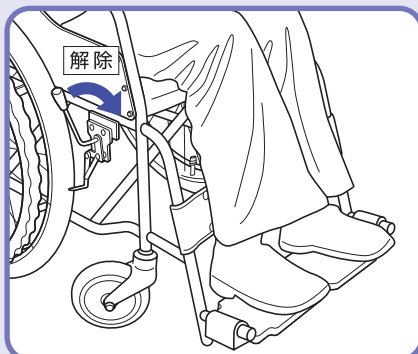
- ノブボルトまたはスナップピンは必ずしっかりと締めてください。
転倒防止パイプが必ず奥まで入っているか確認してください。
回転式スナップピンが入っているか確認してください。
(転倒防止が外れ、役目を果たさない可能性があります。)

していただく

車いすの操作方法

OS-01、11TRS自走タイプの場合

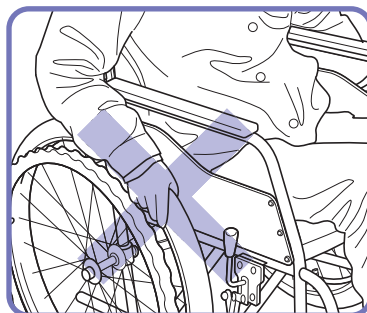
ブレーキロックを解除する。



ハンドリムを握り、車輪を回転させ移動させる。



ハンドリム



⚠ 注意

- タイヤを持って車いすを操作しないでください。ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。

してはいけない

⚠ 注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。摩擦で、手にケガをする恐れがあります。そのような使用をされる場合は、車いす用手袋〈別売〉をご使用ください。

してはいけない

⚠ 注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

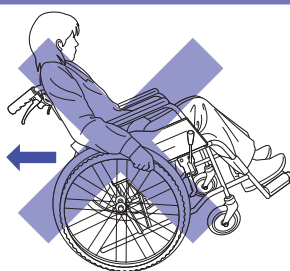
してはいけない

⚠ 注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。手や指を挟んで、ケガをする原因となります。

してはいけない

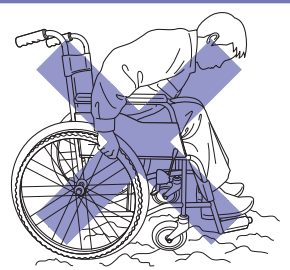
※このような場合にはスポークカバー（オプション）のご使用をおすすめします。



⚠ 注意

- バックしながら急停車しないでください。（転倒・転落事故の原因となります。）

してはいけない



⚠ 注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。（バランスを崩し、前に転倒・転落して事故の原因となります。）

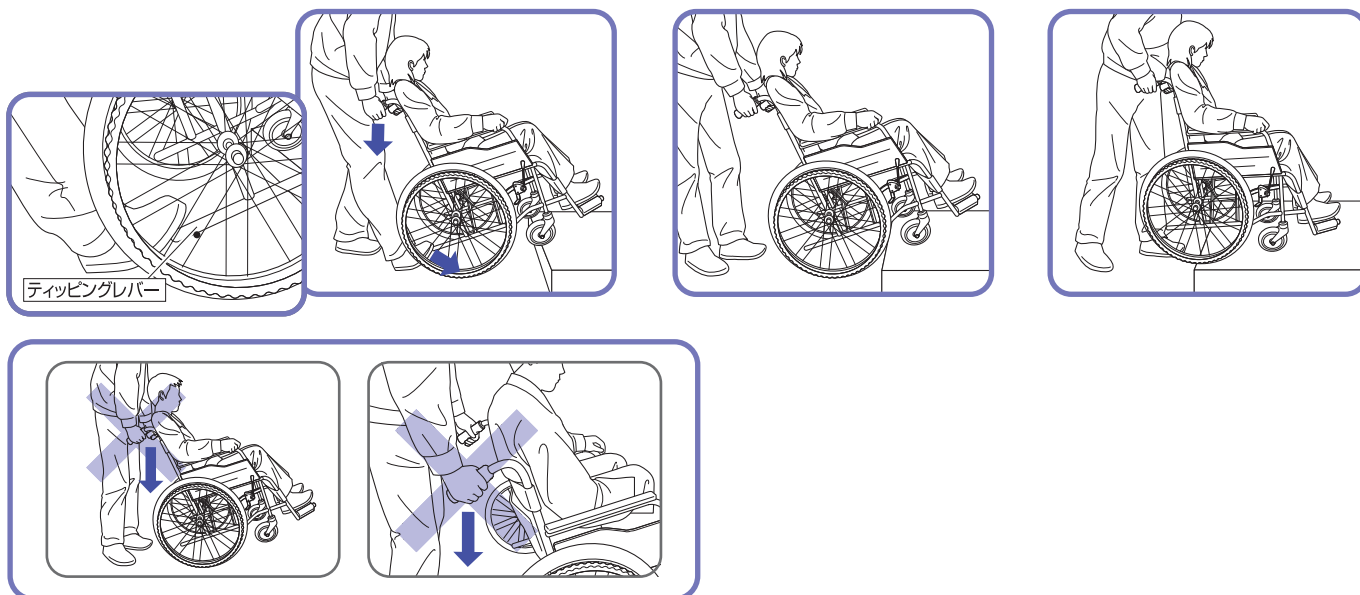
してはいけない

介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・凸凹道
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを踏んでキャスト（前輪）を上げ、段差に乗せてから乗り越えてください。



⚠ 注意

- バックサポートパイプのみで、キャスト（前輪）を上げないでください。
（バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒・転落して事故の原因となります。）

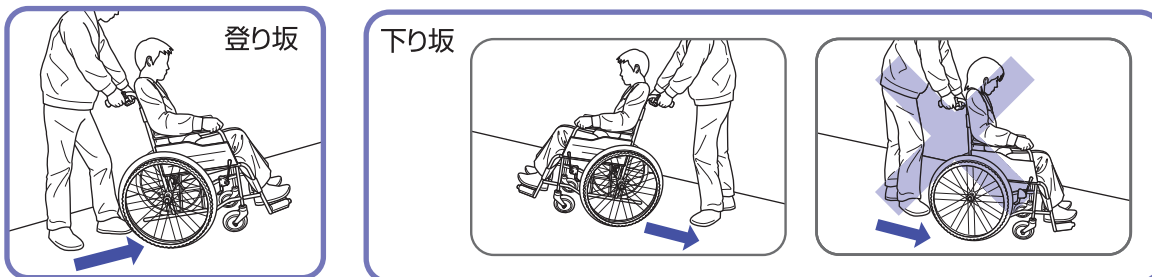
してはいけない

⚠ 注意

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
（使用者が車いすから、転落して事故の原因となります。）

してはいけない

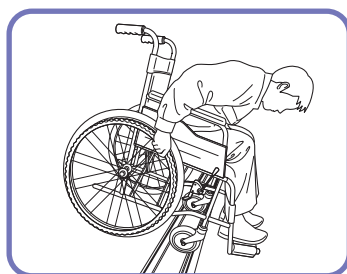
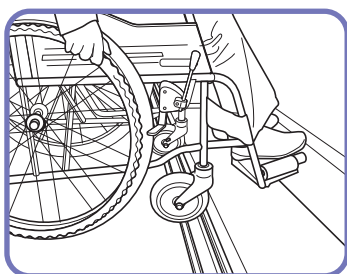
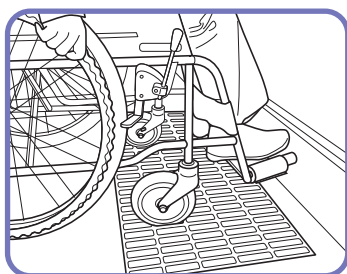
坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただけてください。



⚠ 注意

- 坂道を下るとき介助者の方はくだり坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。
（前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故の原因となります。）

していただく



警告

- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。
(車輪が溝にはまって、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく



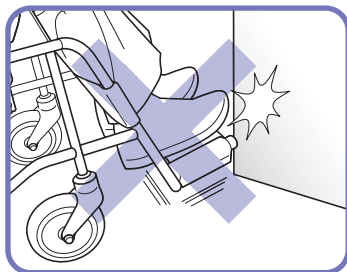
注意

- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

※このような環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスト(オプション)をご使用ください。

【介助者の方へ】



注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく



注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

していただく

■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合



ベースパイプ・バックサポートパイプの固定されている箇所を持って、4～5人で支えてもらってください。



注意

- 必ず固定されている場所を持ってください。
ヘッドサポート、アームサポート、フット・レッグサポート、操作レバー、ブレーキなどを持たないでください。

していただく



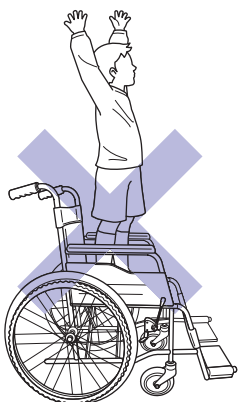
注意

- 車いすを持ち上げるときは座面の水平を保ち、乗っている人の転落には十分注意してください。

していただく

重量がある場合には、人と車いすを別々に移動してください。

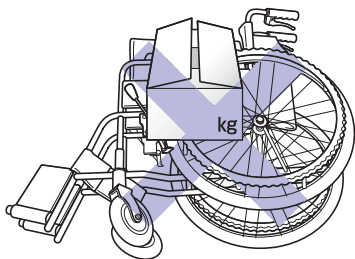
その他の注意事項



⚠ 警告

- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒・転落事故の原因となります。)

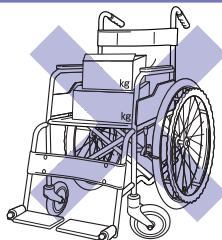
してはいけない



⚠ 注意

- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因となります。)

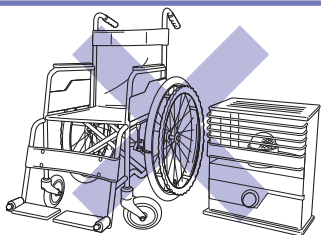
してはいけない



⚠ 注意

- 車いすで荷物を運んだりしないでください。

してはいけない



⚠ 注意

- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

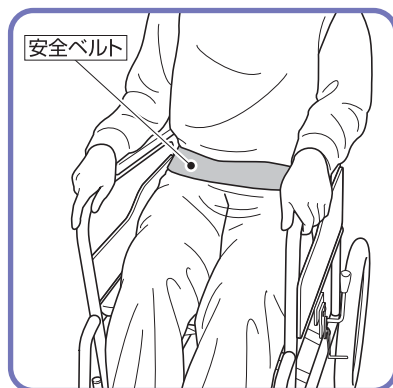
してはいけない

車いすのオプション

車いすをより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意してあります。
(車いすにより取り付けできない場合がございます。販売店、または松永製作所までご相談ください。)

安全ベルト

●使用者が、車いすから転落したり、ずり落ちるのを保護します。



⚠ 注意

●安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。
(衝撃などで転落し事故の原因となります。)

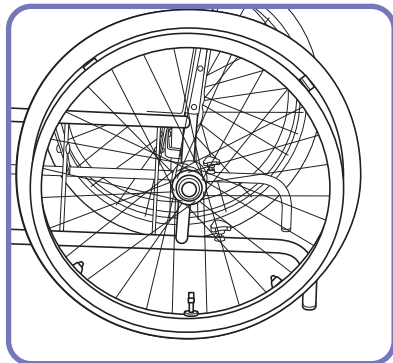
していただく

⚠ 注意

●マジック式安全ベルトは、糸くずや汚れを取り除いてご使用ください。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故原因となります。)

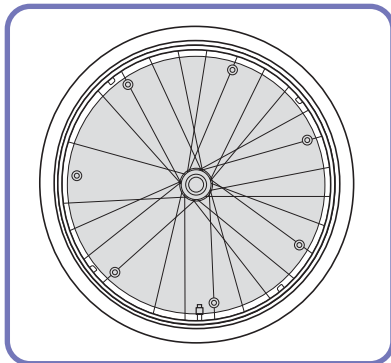
していただく

転倒防止



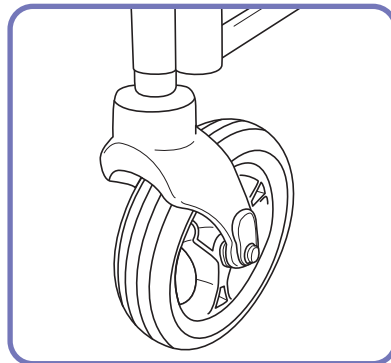
車いすが後方へ倒れるのを防止します。

スポークカバー



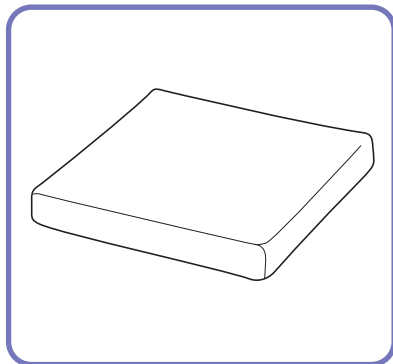
車輪(スポーク)に手を入れケガをする事を防止します。

ワイドキャスト



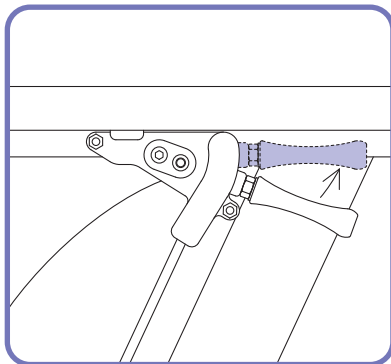
タイヤ幅を広くし、溝などへ落ちにくくします。

クッション



体重の圧力を分散し、快適に座ることができます。
(いろいろな種類があります。)

セルフレバー



セルフティルトリクライニングレバーを握ると、搭乗者が自分でバックサポートの角度を調整することができます。

OS-11TRSのみ

⚠ 警告

●バックサポートの角度調整をする時は、駐車ブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

その他にも

テーブルをご用意しております。

詳しくは、カタログをご覧ください。

もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かな、と思うトラブルが発生したら、修理を依頼する前に下記項目を確認してください。

ト ラ ブ ル	確 認 点	対 処
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のトップナットは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・スーパーバルブが劣化していませんか	スーパーバルブを交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
キャリパーブレーキが効かない	・ワイヤーのねじれ、引っかかりがありませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください
リクライニング操作ができない	・ワイヤーのねじれ、引っかかりがありませんか	ワイヤーのねじれ、引っかかりを直してください
	・使用者の体や小物などがはさまっていませんか	取り除いてください
	・車いすに人を乗せていますか	車いすに人を乗せていない状態では、操作が重くなります

車いすのお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。変色・劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部等に水滴が残る、錆の原因となります。

■タイヤは最適空気圧を保ってください。(P.7)

空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤにはひび割れを防ぐために老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン (O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス（自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤、錆落としなど）。

■車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理を行ってください。

その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・エアリーク
- フレームのひび割れ・曲がり・がたつき
- 各部固定部品の変形
- 駆動輪・キャストの変形
- ボルト・ナット・ネジの緩み
- キャリパーブレーキ・ブレーキの効き具合



シートのお手入れのしかた

- シートの生地には、ニットとビニールレザー（マクラ）を使用しています。
それぞれ、お手入れのしかたが異なりますので、ご注意ください。

ニット（座のみ）

※シート類を洗うときは、次のことに注意してください。

- 座シートの内部ウレタンを外してから洗濯してください。
- 洗濯マークの表示を参照して洗濯をしてください。
- オスマジックテープ（手で触った場合硬い方）は、洗濯中に他のシートを傷つけてしまいます。
オスマジックテープには、当て布をするか、ネットに入れてください。

ニット（背シート）／ビニールレザー

- 洗濯機のご使用は避けてください。
 - 普段は、固くしぼった布で軽く拭いてください。毎日お手入れしていただくと長く清潔に使っていただけます。
- ※汚れがひどい場合、次のことに注意してください。
- うすめた中性洗剤で拭き、空拭きをして陰干ししてください。
アルコールやベンジン等の溶剤や漂白剤は使用しないでください。
特に油（頭、手アカ等を含む）汚れは簡単に落ちないため、汚れたらすぐに拭きとるようにしてください。

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 湿気の多いところ
- 高温室になるところ
- 炎天下なところ

保証について

- 保証期間は、お買上げ後1カ年です。（本体、付属品共）
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。
 1. 火災、天災による故障・損傷の場合
 2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
 3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
 4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、リクライニング用ワイヤー、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
 5. 修理に要した運賃等の諸経費
- この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

車いす 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店（有料）で定期的に点検をしていただくようにお願いします。

（長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください。）

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年 月 日					
		点 検 者					
キャスタ（前輪）	亀裂・キズの有無						
	キャスタの摩耗						
	スムーズな回転						
フォーク	損傷の有無						
	スムーズな旋回						
後輪	タイヤの空気圧						
	タイヤの摩耗						
	スムーズな回転						
	スポークの緩み（自走のみ）						
フレーム	各部キズの有無						
	ボルト・ナットの緩み						
	スムーズな折畳み						
操作部	可動部のがたつき						
	ボルト・ナットの緩み						
連結部	がたつき						
ブレーキ	ブレーキの効き						
シート	シートの破れ・損傷						
	シート固定ネジの緩み						
フットサポート	固定ボルトの緩み						
	プレートの破損						
アームサポート	固定ボルトの緩み						
	パッドの破損						
その他							